



ひろしま

じっこういいんかい

広島みはらプリンプロジェクト実行委員会

～「ゆめ」をつめて 「まち」をひとつに～



各種催事では約15～20種のプリンを販売



年1～2回発行するガイドブック「おでかけプリン」

経緯

- 海と山に囲まれた広島県三原市には、季節を彩る果実や野菜、牛や鶏、瀬戸内海のタコや魚など、海・山・里の幸が豊富。
- 豊かな自然と三原の人々が育んだ食材を全国PRしていくためには官民連携して推進する必要があると感じ、様々な食材を巻き込むコンテンツとして「プリン」を使ってまちおこしをしていくことに決定。

取組内容

- 三原市や特産品を全国に発信するとともに、一次生産者などの所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上が目的。
- 「三原の食材を一つ以上使用」「三原を応援する人(店)」が作ったプリンであれば、随時認定。三原を応援してくださる人やお店であれば、市外の方でも参加可能。
- 首都圏への販路開拓として、千葉県企業と協業して三原の特産品を販売するショップを開設し、広島みはらプリンも販売。

活動の効果

- 令和4年度までの通算で102件の媒体に掲載をいただいた。積極的にHPやSNSを活用する他、紙媒体で年1～2回認定プリンを紹介するガイドブック「おでかけプリン」を発行し、参加店を周遊してもらえる機運を醸成。
- 令和4年度の催事出店は、市内9か所、市外15か所、県外3か所の合計27か所の74日間出店し、参加店の売上(所得)向上にも寄与しているほか、地域内消費の拡大の結果、農・畜・水産業の一次生産者の所得向上にもつながってきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

三原の美味しくて郷土の誇りである特産物を、親しみやすいプリンにすれば、三原市民みんなが参加して、魅力を伝えることができるはず。そんな想いをプリンに込めました。「広島みはらプリン」で、新しい美味しさと三原の隠れた魅力に出会えるでしょう。

住所・電話番号・SNS等

HP・インスタ <https://広島みはらプリン.jp> https://www.instagram.com/hiroshima_mihara_pudding/



カンキツスタンドオレンジ

～柑橘と地域の魅力を伝えていくスタンド～



店舗で販売をしているジュース・かき氷



瀬戸田の柑橘農家と共同開催をした
ジュースの試飲会

経緯

○事業責任者が尾道市瀬戸田町に移住したことをきっかけに柑橘農家との関係が始まり、多くの課題があることを知るなかで、柑橘ジュースの販売に可能性を見出す。複数の農家の協力を得ながら、柑橘ジュースの提供を軸とした柑橘専門店をJR尾道駅に令和4年夏オープン。柑橘ジュースによる柑橘農業の6次産業化への活路を見出す。

取組内容

○3つの課題(①収穫(冬)と観光(春～秋)でシーズンが異なる②育てられている様々な品種それぞれの柑橘の特徴が認知されていない③柑橘ジュース等加工品の販売に苦戦)を解決するべく、令和4年7月に尾道市瀬戸田町の柑橘を専門に取り扱う柑橘ジューススタンドをJR尾道駅1階に開業。
○柑橘ジュース3種の飲み比べ、かき氷やアルコール飲料を提供するほか、自社加工のジャムやオリジナルTシャツ等のグッズ販売も行う。

活動の効果

○当初、取引できる生産者が3軒のみだったが、現在では搾汁を行う生産者も10軒に増え、現在は品種と生産者が異なる23種類の柑橘ジュースを取り扱う。
○地域の柑橘ジュースの品質を高めるべく、生産者とカンキツスタンドオレンジで販売する果汁の合同試飲会を実施。
○実店舗だけではなく、広島市内や東京都内でのイベント出店も積極的に行い、尾道市瀬戸田町の柑橘をPR。

応募団体からのアピール・メッセージ

「柑橘の美味しさ、奥深さ、面白さを伝えたい！」そんな思いから、瀬戸田を中心とした柑橘専門店として、JR尾道駅内にオープンしました。想像以上に味わい深い柑橘ジュースをぜひお楽しみください！イベント等への出店も積極的に行っておりますので、お気軽にお問合せください。

住所・電話番号・SNS等

店舗・JR尾道駅1階東側

HP:<https://kankitsustand.stores.jp/>

https://www.instagram.com/kankitsustand_orange/

奨励賞

いっばんしゃだんほうじん

きょうわけんき

一般社団法人 協和元気センター

～温故と絆の探求～



和紙作り教室



アンテナショップ「NEKI」へ出品

経緯

- 過疎化・少子化が進み、保育所・小学校・中学校がなくなるとともに、地域のつながりも薄れた。また、生活様式の変化からかつて栄えた地域の伝統産業・文化も衰退している。
- 地元の有志が話し合い、江戸時代に福山藩の特産物として生産が始まり400年の歴史を持つ「阿字和紙」を復活させようと(一社)協和元気センターを立ち上げた。

取組内容

- 地元の小学生の紙すき体験教室を中心に事業を始め、紙すきのノウハウを積み上げ様々な商品を開発。
- 行燈・うちわ・ご朱印帳など、府中市の東京のアンテナショップ「NEKI」でも販売。
- G7サミットでは各国首脳への贈呈品(花瓶)の包装紙として阿字和紙が採用された。
- 高齢者を支援する活動として、デマンドタクシーの運営やコミュニティ・キッチンの開催等も実施している。

活動の効果

- G7サミットへの製品採用に向けて、和紙の厚みや滑らかさ等要求された高い品質基準をクリアするため試行錯誤する中で、科学的見地から作業するノウハウを得た。
- 府中市観光協会と連携する中で、国登録有形文化財の元料亭旅館「恋しき」では阿字和紙の行燈が飾られ、テレビや新聞で取り上げられ製品の認知度が高まった。
- ミツマタを耕作放棄地に植樹したことにより、和紙の材料の安定的な確保だけでなく、荒れた農地が減ることで日本の農村の原風景の維持に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

府中市観光協会との連携を強化し、コロナ禍後に想定されるインバウンドをターゲットに、紙すき体験を「コト消費」として呼び込みを図る。G7サミット向けの製品づくりで獲得した成果を活かし、阿字和紙を世界に発信！

住所・電話番号・SNS等

HP・YouTube <https://kyowa-gc.net/> <https://www.youtube.com/watch?v=-3dU4uAm1Ok>

いっばんしゃだんほうじん てんりょうじょうげ か い
一般社団法人 天領上下まちづくりの会

～石見銀山の出張陣屋として栄えた金融の町並みを未来へ～



天領上下ひなまつり「でこ市」の賑わい



修復後の翁座の『まちづくりシンポジウム』

経緯

○江戸幕府の直轄地として栄えた歴史文化や白壁の町並み等の観光資源はあるが、人口減少、高齢化や空き家問題が進み、休止となっていた町づくり活動を継承し、平成26年上下まちづくり協議会を設立。令和4年に同会を(一社)天領上下まちづくりの会として法人化し、重要伝統的建造物群保存地区の指定と地域を未来に残す活動の拠点に。

取組内容

○石見銀山の出張陣屋として栄えた金融の町並み保全と、歴史や観光資源を活用したまちづくり。
○築100年を迎える中国地方唯一現存している木造の芝居小屋「翁座」、上下キリスト教会、旧片野製パン所、上下町商工会館等の修復作業。
○ひなまつりイベントを「この街が好きキャンペーン」とし、町内の良い所探しやリモートでの学習会などを定期的開催。

活動の効果

○平成17年から開催している、天領上下ひなまつりの参加者数がコロナ禍以前のレベルに回復。
○令和3年度から開館した芝居小屋「翁座」(土・日・祝日10時～15時に開館)の入館者数増加。
○令和2年度から開館した泊まれる町家「天領上下」の宿泊者数増加。
○インサイドジャパンツアー開催の外国人ツアー参加者数が回復。

応募団体からのアピール・メッセージ

「生きている白壁の町並み」のもとに上下町民が代々受け継ぎ守ってきた建築物群を、「生きていける白壁の町並み」として未来へ継承していくことが、上下の歴史ある町並みに生き、まちづくりを受け継いだ我々の責任だと心に刻み、取り組みを続けていきます。

住所・電話番号・SNS等

Facebook:一般社団法人 天領上下まちづくりの会 HP:<https://jogetenryo.com>

かぶしがいしゃ ふくだのうじょう

株式会社 福田農場

～経営規模拡大しても「地域と共」に集落営農～



市民農園使用者に収穫指導



農村の食文化を堪能できる収穫感謝祭

経緯

- 三次市の西組営農組合では、組合員の高齢化、担い手不足による農地の遊休化、荒廃化を防止することが課題であった。
- 持続可能な営農展開のために法人経営が切望される中、後継者のUターンをきっかけに農業法人を設立し、住民と連携した2階建方式の集落経営の仕組みを構築。

取組内容

- 三次市の市民農園管理を受託し、芋ほりによる消費者との農業交流体験を行うほか、秋には収穫感謝祭を開催し農村文化で交流を深める。
- 組合員の就労機会の提供を目的に、味噌をはじめとする農産加工品づくりに取り組み、三次市内4つの小学校の給食用に味噌を供給。
- 自社が生産した米を製粉して米粉パンを製造し、店頭販売のほか訪問販売を行う。

活動の効果

- 農業法人設立当初の経営面積は36haであったが、従業員の主体性と連携を作業の基本とし、きつい農業イメージの脱却を掲げ、令和5年は77haとなっている。
- 組合員と共同で製造している農産物加工品は、米粉パン、味噌、餅、コンニャク、総菜など、多彩な加工品を販売し、組合員の雇用と給与還元による経済循環に繋がり、高齢者の生きがいとなっている。また、味噌を供給している小学校の生徒からは「味噌は福田農場の味噌でなくては」との声も伝わっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

集落の住民と連携しながら、水稻＋農作業受託＋農産加工販売＋市民農園管理の複合経営を継続し、今後は、新規就農者の研修農場として人材の育成に指導的役割を果たしていきたい。

住所・電話番号・SNS等

三次市和知町2682-2 Tel:0824-66-2765

ひろしまけんりつしょうばらじつぎょうこうとうがっこう

広島県立庄原実業高等学校

～生徒が先生！ヒゴタイ保全と体験と学び支援～



保育園の農業体験



生徒による小学校でのヒゴタイの講義

経緯

- 過疎・少子高齢化、若者の都市部流出等、中山間地の課題が凝縮している中、「市外に出てもいつかは帰りたくなる故郷づくり」への貢献を目指している。
- 平成15年ころから、集落資源の保全活動、児童・園児との体験交流、学習支援を通じた実践的な学びの展開、地域をフィールドにした探求学習に取り組んでいる。

取組内容

- 市内の2保育園、2小学校と連携し、手作業によるサツマイモと稲の植付・収穫の体験指導を行う「ワクワク農業体験指導」は、開始から20年を経過している。
- 小学生の提案により地域住民が「ヒゴタイ会」を平成12年に結成。平成25年から本校が連携し、絶滅危惧種ヒゴタイの自生地拡大活動、小学生向けにヒゴタイの学習講義を行い「ヒゴタイは地域の宝」と盛り上げ、市民を巻き込んだ活動につなげている。

活動の効果

- 「ワクワク農業体験指導」を行う生徒は、学習成果を発揮する場となり、適切なコミュニケーションの形成、学習意欲の向上につながっている。
- 農家の子供でも農業体験が激減している中、体験に参加した児童・園児が本校に入学し、指導的役割を果たしている例も少なくない。
- 講義を行った小学校で「ヒゴタイは地域の宝」と盛り上がり、市民を巻き込んだ活動の継続、広がりにつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域産業の未来志向型アグリビジネスプレイヤーを目指し、地域をフィールドにした地域課題解決の探求学習に、生徒主体で取り組んでおり、希望と期待を抱ける一次産業の再生方策を生徒視点で探究し発信し続ける。

住所・電話番号・SNS等

庄原市西本町一丁目24-34 Tel:0824-72-2151

ひろしまけんりつけかけこうとうがっこう

広島県立加計高等学校

～かわいがられ、地域貢献する加計高校～



小学生対象の夏休みイベント



菊芋を用いた新スイーツ開発

経緯

- 少子高齢化が進行する安芸太田町は、移住定住促進策を推進していて、若者の「仕事づくり」が最重要課題として位置付けられていた。
- 環境資源や農産物などを若者が最大限活用して、ローカルビジネスとして創造することができる地域社会の形成が喫緊の課題となっていて、高校においても町の活性化に寄与したいと考えた。

取組内容

- 令和元年度に始まった「ミライ探究プロジェクト」は、生徒が地域住民等と連携して、地域課題の解決に向けた様々なプロジェクト（小学生対象の夏休みイベント、菊芋を用いた新スイーツ開発、マルシェ活動等）の企画・運営に取り組んでいる。
- 中間発表会等で、地域コーディネーターや協議会委員等の助言を受けながら、目標・課題を意識して取組内容のブラッシュアップを図っている。

活動の効果

- 町の地域資源を活用した特色ある活動を継続することで、地域の活性化に繋がっている。
- 令和5年度の入試では県外から30名を超える志願があり、県内トップの受検倍率(2.2倍)となった。
- ミライ探究プロジェクトの活動は進路希望に応じた課題研究企画であり、国公立大学の総合型入試等の合格にも繋がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

生徒と地域住民・地元企業等との連携協働体制を構築し、地元を愛し、起業家精神を持つ人材を育成しています。

住所・電話番号・SNS等

安芸太田町大字加計3780-1 Tel:0826-22-0488

いっばんしゃだんほうじん

一般社団法人 まなびのみなと

～豊かな食の島がつくる、豊かな学びの原体験～



若手農家から紅茶原材料となる柑橘の仕入れ



大崎上島の土産品「島の柑橘紅茶」

経緯

- 生徒数減少で高校は統廃合の危機に直面。地域を学びの場とした教育活動を特色とし、県外からの進学を希望する生徒が増加したが、島内進学者は伸び悩んでいた。
- そこで「食」という身近な題材を切り口とし、島内の小学生に地域で学ぶことの意義と魅力を届ける「大崎上島町食育プログラム」の開発が始まった。

取組内容

- 食に関わる地域資源を教育資源として活用。島内の小学生に向け、「事業者と出会う→収穫→調理→食べる」の一連の体験を提供。
- 約半年かけ柑橘紅茶を開発。関わった高校生は、授業で規格外品が低価格で取引されていることを知り、意図的に規格外品柑橘を仕入れ、ジャムの加工過程で廃棄部分として発生する柑橘の皮を地域の店舗から譲り受け、紅茶の原材料として使用。

活動の効果

- 大崎上島町食育プログラムでは、参加する小学生にとって、「地域で学ぶ」を体現する高校生の姿は最も近いロールモデルとなり、高校生にとっても、プログラムの設計・運営に携わることは、学校外での学びの機会・実践の機会となりうる。
- 令和4年度は法人主催のプログラムとして実施。町としての実施意義が認められ、令和5年度より大崎上島町の事業とし、法人が委託を受ける形で実施。
- 一次産業と教育の融合型プログラムの一環として、島内の高校生が廃棄予定の柑橘を島の農家から買い取り、県内の茶屋やデザイナーと協力し島の柑橘紅茶を開発・製造・販売。柑橘の新たな見方を島内外に発信し、島の一次産業の活性化にも寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

紅茶開発は、完成した商品を通し、高校生自ら、柑橘や農業の新しい「見方」のきっかけを創り出し、柑橘や農家の「味方」になることを目指す。

住所・電話番号・SNS等

豊田郡大崎上島町中野1871-1 MAIL: manabi.no.minato@gmail.com

あるぎじちしんこうかい

有木自治振興会

～都市住民と過疎化に悩む農山村の掛け橋に～



ビレッジハウス仁吾川(旧有木小学校)



イベント(魚のつかみどり体験)

経緯

- 都市と農村の交流による地域活性化の取組を実践し、平成18年度からは、田舎が抱える悩みと都市住民が求める思いの掛け橋ができればと、田舎応援団「あるぎ俱樂部」を結成。
- 簡易宿泊施設「ビレッジハウス仁吾川」を活動拠点として、地域の魅力を生かしたイベント企画・実施など、関係人口の増加を図る。

取組内容

- 都市住民と地域住民との協働で農山村の農地等の維持管理保全活動を行い、遊休農地を活用した農作業体験など、ふるさと保全に関心のある都会の人が活動。
- 耕作放棄地の増加を防ぐため遊休化する農地を活用し、地元農家の指導により約30種類の野菜を栽培、現在約30aまで拡大。
- 「蛍ツアー・夏ツアー」などのイベント企画・実施など、いつでも賑わう場を創出することにより、関係人口の増加を図る。

活動の効果

- 地域住民には遊休化する農地の活用のあり方を提案することができた。
- これまで地域住民だけで実施していたイベントに、都市住民が積極的に参加することで、担い手不足の中、地域住民の負担が軽減され、参加者は日頃味わえない自然とのふれあいや、地域住民との交流を楽しみながら、過疎化に悩む集落の活性化(賑わいづくり)にも貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

太陽がおはようと微笑んだら外に飛び出してみよう！

この素晴らしさは、何ととっても、自然の多さです。家を一步でると、都会では絶対に手に入らない素晴らしい癒しの空間が広がっています。

住所・電話番号・SNS等

有木自治振興会ofビレッジハウス仁吾川 <https://arugi-village.com/index.html>



かぶしきがいしゃ びんご
株式会社 BINGO

特別賞

～地域の猪の有効活用と、地域の課題解決～



焼肉用に処理された猪肉



ペットフードプロモーション活動

経緯

- 備後地域では年間約9000頭の猪が有害駆除されてきたが、処理施設等が無いことで9割は捨てられていた。また、狩猟者の高齢化で捕獲後の個体処理が課題であったため平成30年に福山市、令和5年には神石高原町でジビエ処理施設「備後ジビエ製作所」を立ち上げた。
- 福山市施設は食肉、神石高原町施設はペットフードへ加工する。

取組内容

- 捕獲した有害鳥獣の有効活用化と、高齢狩猟者の負担軽減・若手狩猟者獲得を目指し、地域の有害鳥獣被害を軽減。
- 狩猟者は有害鳥獣捕獲後の処理に困っていることから、現場まで出張し、止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して行う。
- 地域での罠設置代行や自社での有害鳥獣捕獲活動も行う。
- ジビエ肉は食肉としての輸出が難しい為ペットフードの輸出を香港と定期的に行う予定。

活動の効果

- 高齢狩猟者の負担軽減・若手狩猟者の獲得・捨てられていた命の有効活用を3本の柱として運営を行っており、備後地域全域の課題を解決。
- 職業猟師を目指す移住者が多く、全国各地から多様な人材が移住し従事。また、ペットフード製造業務や解体処理業務で応募する女性も多く、女性従業員比率が約5割あり、女性の活躍により女性目線の商品開発に成果。
- 食肉とペットフードに分けて販売を行うことで、それぞれの顧客の満足度が向上。

応募団体からのアピール・メッセージ

当プロジェクトは事業として成立しなければ存続することができず、地域で広がった協力の輪も消えてしまうことになる。私達は、今後さらに地元ジビエ肉の情報を全国に発信して、売上の拡大を図る事で地域の課題解決・雇用促進に励んでいきます。

住所・電話番号・SNS等

<https://bingogibier.com/> <https://bingogibier.com/gibione/> <https://www.instagram.com/bingogibier/>